

【今日の説教から】

わたしたちは、すでに神の子、私たちは今や神の子。そうなるために、どんなに大きな愛を父から賜ったことでしょうか。そして私たちの行く末は、ついにイエス様を直接目の前に、間近に見て、イエス様に似た者にされるということ。そこに至って初めて似せられるのではなくて、その希望を持つがゆえに、そこに至るまで、主がきよいように、自らを洗いきよめるとあります。

4節からは「罪」という言葉が10回、「悪魔」という言葉が4回出でます。

「子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である。」

罪を行わそと誘い惑わす存在。まとわりつく罪の中、義を行い義人とされる一神が求めるもの、正しき事を行い、神の標準、水準、意志、望み、神様のご人格と品性に従い、順応し、合致・適合する。私たちは十分にこれをやり遂げることが出来るのでしょうか？

「すべて神から生れた者は、罪を犯さない。神の種が、その人のうちにとどまっているからである。また、その人は、神から生れた者であるから、罪を犯すことができない。」

神から生まれたものは全て罪を犯し続けない。神の種がその人のうちにとどまっているから、罪を犯すことが可能であり続けることはない。

一時は道を外れても、神の種である聖霊を宿す者は罪を犯し続けることが出来ない。そして聖霊により、神の望むことを行うことが出来ると聖書は語ります。これが希望です。

皆様、おはようございます。

ついに中国地方も梅雨に入りました。不順な気候ですので、どうぞ皆様お身体にお気を付けください。

1ヨハネの手紙も3章に入りました。

今日の箇所には「罪」という言葉が10回、「悪魔」という言葉が4回出でます。

そして7節にはこうあります。

「子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である。」

惑わしがあります。誘いがあります。神の道から離れさせようと、人を迷わせようとする策略があります。命から遠ざけ、滅びに至らせようとする邪惡な意思が働いています。

宗教改革者であるマルティン・ルターはこのように言いました。

「頭の上を誘惑の鳥が飛び回ることは、だれにも避けることができない。しかし、その誘惑の鳥が、髪の毛の中に巣を作ってしまうのを防ぐことはできる。」

誘惑を受けることは避けられないが、誘惑に陥ることは避けることが出来るということを言ったのですね。

この1ヨハネの2章にはこのような御言葉がありました。

1ヨハネ 2:17 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

今日私たちは、この悪魔の暗躍する世の中で、いかにいのちの道を保つことが出来るのかを聖書から学びたいと願います。

3:1 わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。

まず大前提として確認すべきことは、私たちは贖われ、救われて今すでに神の子であるということです。そして私たちが神の子と呼ばれるために、どんなに大きな愛を父から賜わったことでしょうか。

そしてその絶大なる愛と恵みのうちにあって、良く考えてみなさい、私たちは神の子として頂いたのです。大きな犠牲の上に、私たちはすでに神の子とされたのです。

良く考えてみなければ改めて考えてみなければ神の子であるということなど、この背の中の喧騒の中でかき消されそうになっているかもしれないが、この世の中では神の子だなどということは、決して特筆されるべきこととは取り扱ってはもらえないかもしれないが、「世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったから」。父なる神様を知らない人たちが、私たちが神の子だなどということにも目を向けるはずもないのです。父なる神も、その子供である私たちも、世は「知らない」のです。

私たちは世が神も、神の子にも顧みを与えないように無関心でいるのではなく、神様がおられ、その神様が私たちのためにどれほど大きな愛を賜り、そうして今や神の子として頂いているのかをもう一度深く心に留めなさいということがここには記してあるのではないでしょうか。

3:2 愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。

3:3 彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。

ここに望みがあります。今私たちは神の子であり、それが将来どのような意味を持つことなのか。そこに望みはあるのか。そこに意味はあるのか。今だけの一時しのぎなのか、それとも私たちの将来にわたってずっと有効なものなのか、そのことを考える時、私たちには望みがあります。すなわち、イエス様が現れる時、その時、私たちはイエス様を間近にこの目で見る時に、そのイエス様のまことの姿をありのままに見る時に、私たちもイエス様に似るものとなさせていただける、この希望を持っていると聖書は語ります。

コロナ禍に入ってから久しいのですが、あれは2020年の1月でした。中国での不穏な知らせが現実のものとなったのは翌月、横浜港に寄港していたダイヤモンド・プリンセス号の乗客乗員のうちに感染者が確認されました。マスクが無くなったり、消毒液が店からなくなったりしました。あれから4年半。私は塾をさせていただいておりますが、ずっとマスク姿で最後まで素顔を見ないままお別れをした方があります。最近は教室でもマスクを外す機会があり、お互い様ですが、ああこの方はこういうお顔だったのかと知ることができます。イエス様のこと、私たちは聖書から知るばかりですが、それでも私たちは導きの中、イエス様に似せられる聖霊のお働きの中に入れられています。しかし私たちはイエス様と顔と顔とを合わせて出会うときがあります。その時の感動たるや、いかばかりでしょうか。しかしある人は自分のイメージと異なるということもあるかもしれません。神の子イエス様の印象に力強いものを感じていたが、それ以上にイエス様の柔軟さ、謙遜さにびっくりするということもあるかもしれません。いずれにしましても、その時、私たちはイエス様のまことの、ありのままのお姿を見る時、私たちはばっちらりと、こういう風に、このお方のように自分も似せられていきたいという思いが私たち皆の心に定まるのです。そうして私たちはこのお方にますます似せられていくのです。

この望みにある私たちは、その時にそうなるからその時からでよいとは考えずに、一層そんなときが備えられていることを喜び、その時に備えて望みに思い、イエス様にいよいよ似せられるように、楽しみつつ、自分なりの「イエス様の似顔絵コンテスト」ではないですが、自分の心をキャンバスにして、私が思うイエス様像に生きるという、自分を清める生き方に拍車をかけていくのです。

3:4 すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。

3:5 あなたがたが知っているとおり、彼は罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない。

3:6 すべて彼における者は、罪を犯さない。すべて罪を犯す者は彼を見たこともなく、知っ

たこともない者である。

3:7 子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である。

3:8 罪を犯す者は、悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである。

さて 4 節からは罪という言葉が 10 回、悪魔という言葉が 4 回、です。

義を行い義人とされるということは、こういうことでした。－神が求めるもの、正しき事を行い、神の標準、水準、意志、望み、神様のご人格と品性に従い、順応し、合致・適合する。罪ということは、その正反対を行く行為です。

神が求めることよりも自分が求めることを優先します。そしてここには悪魔の思いがくみ取られています。自分の思いのままにと、自由にふるまっているように見えても、それは神様のいのちから、恵みから、愛から引き離そうとしている悪魔の策略に捕らわれている、その状態であることを私たちは忘れてはなりません。私たちは惑わされているのです。

イエス様は罪を取り除くために来られました。惑わされて罪を犯してしまうことがないように、罪の仕業を打ち壊し、人を惡の奴隸状態から解放して赦しと救いと自由とを与えるためにイエス様は十字架にかかり、私たちの罪のための身代わりとなってくださいました。

3:9 すべて神から生れた者は、罪を犯さない。神の種が、その人のうちにとどまっているからである。また、その人は、神から生れた者であるから、罪を犯すことができない。

私たちはそのようにして、神様の恵みとご愛のゆえに、十字架の贖いによって、大きな大きな愛によって新しく生まれさせていただいた者です。

このようにすべて神様から生まれたものは、罪を犯し続けません。一時は罪を犯すことがあっても、犯し続けることはしません。もはや私たちは義とされていて、何が神様を喜ばせ、何が神様の御心で、ご人格で、ご品性であるか、何が神様の水準であるのかということを聖霊によって心深くに理解させていただいているからです。聖霊がおられ、私たちは神様から生まれたものであるので、罪を犯す状態であり続けることが出来ないです。これは恵みです。古き我に死に、キリスト。イエス様と共に生かされているのです。

ガラテヤ 2:19 わたしは、神に生きるために、律法によって律法に死んだ。わたしはキリストと共に十字架につけられた。

2:20 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておら

れるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

3:10 神の子と悪魔の子との区別は、これによって明らかである。すなわち、すべて義を行わない者は、神から出た者ではない。兄弟を愛さない者も、同様である。

私たちは罪を犯し続けることが出来ず、義を行うものとされています。神の子として生み出されているからです。神から出たものは、兄弟を愛します。与え、仕え、助け、徳を高めます。イエス様から愛していただいたように、そのように私たちも実行するのです。神から生まれたもの、神の種である聖霊を持つものはそれをし続けます。

そしてこの恵みを全ての人に伝えます。私たちはそうせずにはいられない、イエス様による愛の衝動の中に生かされているのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。法に背き、神様の御心に背き、罪を犯し、悪魔の心に惑わされ、正しきことが出来なくなっていた者を今すでに神の子と呼ばれるようにしてくださったということ、そこには父なる神様のどれほど大きいご愛があったのでしょうか。今私たちは神の子とされ、うちに生きておられます聖霊により、罪を犯し続けることをせず、そうすることが出来なくなったほどに神様のお守りの中に入れられています。私たちのためには末広がりの将来が用意されています。どうかこの希望の中に今週も私たちをお守りください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン